

令和3年度 研究構想

〈児童の実態〉

- ・国語の学習に興味をもち、意欲的に話し合い活動に参加したり、言語活動に取り組んだりできる。
- ・主体的に交流して、自分の考えを深めたり広めたりする児童が増えた。
- ・目的的な読みを通して、表現に必要な基礎的な技能を身に付け、自分の考えを豊かに表現できる児童が少ない。
- ・国語科で培った表現する力を他教科や他領域の学習に発揮できる子が少ない。
- ・読書に興味をもち進んで図書室を利用する児童が増えた。

心豊かで、実践力のある子どもの育成
～仲間とともに、やりぬく子～

〈研究主題〉

確かな読む力を身に付け、
多様な場面で表現できる子の育成
～主体的・対話的な学びの充実を通して～

〈町の方針と重点〉

一人一人に「生きる力」を育む指導の充実
児童生徒が主体的となって学習に取り組むための指導を充実するとともに、言語活動を充実させ、基礎的・基本的な知識・技能を一人一人に確実に身に付けさせる指導の徹底と、思考力・判断力・表現力及び学びに向かう力・人間性等を高める指導の充実。

〈国語科の目標〉

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成する。

- ・日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- ・日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- ・言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

〈めざす児童の姿と付けたい力〉

- ・日常生活に必要な国語の知識や技能を身につけ、進んで読書に親しむことができる子（知識・技能）
- ・自分の考えをもって交流することで、相手に正しく伝えたり、自分の考えを深めたりすることができる子（思考力・判断力・表現力）
- ・国語科で培った表現する力を他教科や他領域の学習に発揮できる子（学びに向かう力）

〈研究仮説〉

身に付けたい力と単位時間の役割を明確にした系統的な指導計画を作成し、主体的・対話的な交流を位置付けた授業づくりと児童が学びを実感できる振り返りを工夫すれば、自ら学ぶ意欲をもち、確かな読む力を身に付け、多様な場面で表現できる子を育成することができる。

〈研究内容1〉

系統的な指導計画の工夫

- (1) 付けたい力の系統を明らかにした単元配列計画
 - ・各学年で付けたい力の系統化と、学年間の単元との関連性を図った種類別（物語的文章、説明的文章）単元配列表の作成
- (2) 付けたい力を身に付けさせるために位置付けた言語活動と毎時間の役割を明確にした指導計画の作成
 - ・単元に位置付けた言語活動の設定
 - ・出口を意識した単位時間の設定
- (3) 学びの確実な深まりを生み出す、単位時間の基本形の作成
 - ・単位時間の学びを確実にする単位時間の展開の形式化

〈研究内容2〉

学習過程の工夫

- (1) 単元の目的と見通しを明確にもたせる導入の工夫
 - ・児童の興味・関心をもたせる課題提示の工夫
- (2) 主体的・対話的な共有の場の設定
 - ・共有の目的・視点、方法を明確にした、ペア・グループ交流の工夫
 - ・自分の考えの見直しを促す、「深めの発問」の工夫
- (3) 学びを実感できる振り返りの場の設定
 - ・学習の高まり合いを実感できる自己評価・相互評価の工夫（振り返りの視点）
 - ・キーワードを活用して自分の学んだ事柄をまとめるための指導の工夫

〈研究内容3〉

言語環境の確立

- (1) 言語環境の整備
 - ・言語活動に必要な読書活動の位置付け
 - ・国語辞典の活用と語彙の習得
 - ・学びの足あと作り
- (2) 読書活動の充実
 - ・読書記録の累積
 - ・推薦図書を紹介（ビブリオトーク・書評）
 - ・説明文で学んだ技術の活用（日記、作文、新聞コラム）
 - ・物語文で学んだ技術の活用（読書感想文、推薦図書）
- (3) 日常生活の中での話し合う場の位置付け
 - ・学びタイム（段階的な指導）
 - ・学級活動

〈PTA や外部機関との連携〉

- ・三校ビブリオトーク（11月）
- ・ハートピア図書館の出前図書
- ・ハートピア図書館司書や学校図書館司書の読み聞かせ
- ・保護者ボランティアによる読み聞かせ

〈家庭との連携〉

- ・学校の学びとつながる家庭学習
- ・読書週間にあわせた「親子読書」の位置付け（年2回）
- ・家庭学習強調週間の見届け

